



志木四小だより

学校教育目標

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○やりぬく子 ○元気な子

志木市立志木第四小学校
平成31年度 No 2
令和元年5月1日
志木市館1丁目4番1号
Tel 048 - 474 - 7911
児童数5月1日現在416名



「学力・学習状況調査と考える子の育成」

校長 可知 良之

新学期が始って3週間、平成31年度の教育課程が順調にスタートいたしました。先日は昨年度の学力学習状況をみるためのテストを行いました。6年生は全国調査もありましたのでテスト三昧の数日でしたが、落ち着いてしっかりと問題と格闘していました。今回の全国調査は新聞でも問題が公表されていましてご覧になった方も多いと思います。昨年までとの大きな違いは基礎基本の定着具合をみるA問題と活用力をみるB問題との2本立てをやめたところです。問題の数は少なくなりましたが文章の量がとても多いので、答えるべき問題にたどり着くまでにかかり時間がかかりそうでした。読み解く力が必要です。

問題も実にユニークでした。算数の4問題は遊園地で乗り物券を買う設定で、行列ができていたため何分後に券が買えるのかを問う問題でした。しかし、最終的な答えを書く必要はなく、この問題を解くためには何を調べれば良いのか、どのような式を立てれば良いのかなど、考え方ができているかどうかのみを問うています。これまでのテストとは大きく異なっていると感ずます。

国語の問題もこれまでとの違いがはっきり出ています。言語に関する基礎基本である漢字の読み書きに関する問題では、報告する文章を読み返している設定で、習ったはずの漢字が平仮名になっている事に気が付き漢字に直すというものです。しかも同じ読み方でたくさん書き方のある漢字の問題なので正しく文脈を理解していないと間違えてしまいます。ここでも考える力が求められます。

今回の調査で感じたことは、単に知識があつて技能が高いというだけではこうした問題には対処できないだろうということです。いくつかの知識を総動員して解決に向けての方策を練って答えにたどり着く力が必要です。しかも、この問題を解いてみたい、解決していきたいといった意欲がないと、長い文章を読んでいるうちに途中で諦めてしまいます。意欲も大事な学力の一つと言われているのでこうした力も定着しているかどうか見ているのだと思います。

この様な力(資質や能力と呼んでいます)を子供たちに身に付けさせるため、新しい学習指導要領では「主体的・対話的で深い学びのある授業」が最も効果的であると考へ、実践しています。もちろん授業の中では基礎基本の定着も必要ですので黙々と反復練習をする時間も設けますが「今日の授業はたっぷり考へて、とても面白かった。」こうした感想が寄せられる授業も確実に増えてきます。こうした授業が行いやすいように来年度からは教科書も新しく変わります。教科書展示会の案内が6月頃にありますので、近くになりましたらお知らせいたします。今回の調査結果については概ね7月下旬頃になる予定です。

40周年記念特集

開校当時(昭和55年)の様子

児童数246名8学級でスタートしました。卒業生はわずか40名だったそうです。志木市としては市民憲章や市の木(モクセイ)市の花(ツツジ)が制定された年でした。卒業ソングで有名だった「贈る言葉」が流行したのもこの年です。アイドルという言葉が全盛だった頃でした。

12 16 ~~13 16~~

13 15

13 15